

令和 8 年度 第 1 回

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

議事要旨

宇治市

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

<開催年月日> 令和8年7月21日（火曜日）午後14時から16時まで

<開催場所> 宇治市役所議会棟3階 第3委員会室

<出席者>

松村 尚	公益社団法人宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
長谷川 理生也	宇治商工会議所 専務理事
平井 恭子	京都教育大学 教授
真山 達志	同志社大学 名誉教授
古澤 明	京都府山城広域振興局 局長
中川 健治	株式会社京都銀行 宇治支店長
永田 悠祐	連合京都南山城地域協議会 幹事
河村 亮	株式会社京都新聞社 南部総局長
小長谷 敦子	公認会計士
高田 悦子	特定非営利活動法人働きたいおんなたちのネットワーク 理事長
森崎 恭平	市民公募委員
山本 奈々	市民公募委員

計12名

<事務局等>

川口 龍雄	宇治市 副市長
大北 浩之	政策企画部 部長
雲丹亀 正記	政策企画部 副部長
三村 敦	政策企画部政策戦略課 課長
辻 親雄	政策企画部政策戦略課 副課長
服部 和夫	政策企画部政策戦略課 係長
田島 佳奈	政策企画部政策戦略課 主事

計7名

<会議次第>

1. 開会

2. はじめに

3. 議事

議事（１）第３期宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価（案）について

4. 閉会

<会議内容>

1. 開会

2. はじめに

《事務局より挨拶》

《副市長より挨拶》

3. 議事

議事（１）第３期宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価（案）について

（委員長）

では次第に基づきまして、３の議事（１）ですが、第３期宇治市まちひとしごと創生総合戦略事業評価案につきまして、事務局から御説明をお願いいたします。

《資料に基づき事務局から説明》

（委員長）

それではこれから質疑に入りたいと思います。

（委員）

今回が３年目で委員の最後の年となりますので、全体を見直していました。資料作りの丁寧さ、変更点の迅速な対応に感謝いたします。本題に入りますが、違和感を覚えるところが何点かありました。

まず５ページですが、目標があまり達成できてないという感覚を覚えるのですが、この見せ方に工夫はできないのかなと思いました。０％や２４．３％、一見低いなと思いますが、７ページの観光客の満足度ですと、目標値が令和１１年に８５％到達するのがゴールとされていますが、ステップアップ、段階を作る方法もあるのかなと思います。資料の見方が分かっていない部分があるかも

しませんが、資料を見ていて不安を感じるが多かったです。令和 7～11 年までの小さなゴールがあって、令和 11 年度も目標を達成するのが、K P I 戦略なのではというのが率直な意見です。このあたりの K P I の設定方法等、ご説明よろしくをお願いします。

(事務局)

K P I の考え方ですが、観光であれば 5 年後の令和 11 年度に達成・未達成を評価する目標設定となっています。5 年間を通して、段階的な評価があるほうが分かりやすいという意見だと思いますが、今回は令和 11 年度の目標値に沿って達成、未達成を判断いたしました。次年度以降は段階的に進捗を把握しながら評価できればと考えています。

(委員)

達成した時点で目標値を伸ばされるというのが、今までもあったと思います。例えば、7 ページ目に指標の見方を記載いただいております、達成すればまた次の目標値が伸ばされることに違和感を覚えました。戦略としては限られたリソースがある中で、どこに重点を置くか、もしかすると達成しているのは一定キープすればいいという考えもあるのかなと思いました。逆にまだ達成できていないところにリソースがあつたり、新しい切り口からアプローチすることによって、そもそもこの今の時代というのはかなり予測不可な時代ですので、今できているところは一旦おきながら、進めていくことも一つの戦略なのかなと感じた次第です。

(委員)

5 年計画が立てられている中で、未来を開く都市基盤の整備が 0%ですが、例えば整備するのに、1 年でどう変わるかはなかなか評価しにくいと思いますが、都市計画の 5 年計画に各年度指標はあったか、それに対しての K P I が毎年積み重ねていくので、11 年度までにこういう整備をしていく街の計画があって、今その進捗が何%だという見えるものはあるか教えてほしいです。

(事務局)

都市計画に関しましては、どの場所を整備するなど具体的な計画を持ち合わせているものではなく、渋滞解消や、環境整備などを含めて市道の拡幅整備と、資料 28 ページの上段に指標として記載しております。先ほど服部から説明ありましたとおり、指標を達成していくことで評価させていただいている。単年で評価していくと厳しい状況ですので、そこはうまく市民の皆様にも取組をアピールする手法は今後も検討してまいります。

(委員)

子育て支援の仕事をしております。仕事柄多くの保護者の方やお子様と普段からお会いしております。今回その辺りを中心に見させていただきました。

15 ページで、この春から給食センターができて、中学校の給食が始まりました。きっと直接市にもよかったよってという声も届いているだろうと思います。私が普段関わっている中学生は、不

登校のお子さんやお弁当を作ってもらえなかったり、ヤングケアラーの家庭ということで、困難な家庭環境の方と関わっていることから、中学校給食の実施により、今まで学校に行けなかった子が行けていることがあります。不登校の子も、別室登校を頑張っていますが、お弁当を持って行っていないので、お昼になったら帰ることがありましたが、子供たちの話を聞くと、今年は給食があるからちゃんと夕方まで学校にいると言うんです。私は本当に中学校給食開始を待っていました。中にはアレルギー問題があるというので、色々保護者からお話を聞いていましたが、まずは子供たち全員が御飯を食べられることが1番の目標かなと思っていたので、本当によかったなと私はとても満足しています。

もう一点、子育て環境の充実において、保育所・認定こども園の待機児童数が令和7年度は0になっています。これは国の定義で、実際には、毎年待機児童のお子さんは増え続けている。去年は市の基準で137人で3年連続増加。令和6年に比べ20人増ということで、目に見えない児童が137人いる。私は子育て支援拠点をやっています。私に関わったところでは本当に保育所に入れないという相談がすごく多かったです。確かに宇治市全体を見渡せば空いているところもあるかもしれないけれども、自分の地域でないところ、宇治市は意外と長いので、自分の地域じゃなかったら遠い。やはり働いている方は難しい、兄弟が別々の園に行くのは、毎日のことなので大変ということで、結局入りたい園には入れない待機児童が出ている状況です。

兄弟枠があつたりしますが、去年すごく感じたのが、初めてのお子さんの御家庭で、本当は1歳まで家で見たいけど、1歳だと入れなくなるので、0歳から申込む。去年は0歳でも入れなかったというお子さんがたくさんいました。

この会議では人口増加に着目をしないといけないので、第1子で初めての子育て、自分の思いが届かないときに皆さん第2子を躊躇されますよね。また入れなかったらどうしよう、仕事辞めないといけなかったらどうしよう、という声も実際あるので、国的には0なんだけれども、本当に困っている人が去年137人いたという事実と、保育所自体が減っていないとしたら、なぜ入れないのか。なぜ子供が減っているのに、保育所に入れないのか、地域差があるのかとか、もう少しそこを踏まえて取組を進めると、宇治で子育てをしていきたいという人が増えるのかなと思いました。この見せ方をどうするか、今度どうするかを聞かせていただければと思います。

(事務局)

大変耳の痛い話です。やはり地域偏在がかなりある状況でして、木幡御蔵山地域では逼迫、市内の反対側の久保地域は比較的余裕がある状況です。保育所の立地の状況や、子育て世帯の状況などいろんな状況を加味した現状かと思っております。

標準的にその全てを柔軟に対応していくことはなかなか難しい部分もあり、一定KPIの指標としていたしましては国定義後という書き方をせざるを得ないことがあるのも事実です。

ただ一方で、それぞれの御家庭の中で、個別の事情によって悩みを抱えておられるということにつきましては庁内でも横断的に情報共有し、いろんな手法を使って子育て支援できないかなと、プロジェクトチームの中でも議論しておりますので、指標としてより見合った御提案を今回できるような状況ではありませんが、引き続き庁内横断的に情報共有し、対応を検討していきたいと考えております。

(委員)

学校、幼稚園、子供たちの環境についての報告を聞いて大変うれしく思いました。16 ページ、学校教育の充実と学校環境整備ということで、中学校給食開始など授業以外の支援についても充実していると感じました。一方で今年度は非常に暑い日が続いて、6 月以降子供たちが熱中症になるような状況が増えていますが、エアコン設置率がどれぐらいなのかとか、整備の状況とか、アラートが出た時の宇治市ではどういう対応をしているのか、安心安全の取組をお伺いしたいと思いました。

また年間 957 人の子供さんが生まれている中で、産まれる前と産まれる後も支援が充実されているということですが、NHKのニュースによると、分娩できるところ自体が減ってきているという問題があって、宇治市ではそれに対して何か取り組まれているのか教えていただきたい。

(事務局)

まず学校環境整備ということで熱中症対策についてですが、空調は各教室、平成 25 年度頃から整備しておりました。令和 7 年度は更にカーテンを遮熱カーテンに変えていくという取組をしております。あわせて、体育館空調整備は令和 7 年度末で完了しているのが小学校 6 校でございます。順次、工事着手しておりますので、もうしばらくお時間をいただきながら、令和 11 年度頃をめどに完成を目指してまいりたいと考えております。

あわせて、蛇口からお茶が出るという宇治市ならではの取組がありますが、今年度実証実験といたしまして 1 校で冷茶が出る仕組みを進めており、小学生、中学生の熱中症対策を進めているところです。

出産の関係ですが、私どもの情報不足かもしれませんが、宇治市内で出産する施設で困ったという情報は把握しておらず、市内には総合病院も個別の病院もございます。中にはサポートが必要な方もおられると聞いていますので、そういう声がありましたら適宜支援を行ってまいります。

(委員)

まず、今回資料を拝見した率直な所感です。一つ一つの事業を拝見しながら、このイベントには私も参加したとか、お世話になった事業だとか、知人が発信していた取組だとか、当事者目線で資料を読ませていただきました。日頃から宇治市の運営に真摯に取り組んでいただいている行政職員の皆様、そして地域の皆様、ご尽力に敬意を申し上げます。

その上で、市民の視点、そして子育て世帯の観点から、31 ページ以降の、国の地方創生交付金を活用した事業内容について提案をさせていただきたいと思います。

32 ページの主な事業について、各事業にどれだけ事業費が投じられているかよく分かりますが、評価・課題の記述があっさりとした表現にとどまっているという印象を受けました。

どれだけの人が各事業に関わって、どれだけの時間をかけたのかといった背景や、事業によって創出された関係人口実績なども、こちらの数値として示せば評価や課題理解につながるのではないかとということで、以下 4 点を伺いたいです。

まず、主な事業の並び順ですが、どういう基準でこの並び順なのか疑問があります。例えば、

実績の事業費順などで表示することはできないのかと思いました。

二つめは、各表の右側にある財源内訳は、補助率 2 分の 1 ということで、全て半々の数字が書いてあって、全ての事業について記載する必要があるのかなと思いました。

三つ目は、評価課題について定性的に書いてあると申し上げましたが、できる限り定量的に記載できないかなということを知りたかったです。

四つ目ですが、各事業によって具体的にどのぐらいの関係人口創出をされたとか、この表に公表している一つ一つの事業の関係人口創出に関する実績値を記載することは難しいのかと思いました。

33 ページの、「子育て、子育てにやさしい京都創生プロジェクト事業」について、主な事業が 10 行記載されていますが、事業名をよく見ると 6 種類の事業が 10 行に分けて書かれている理由がよく分からなかったので教えていただきたいです。この事業の中で最も事業費が大きいのは子供未来キャンパス事業ですが、それについての評価課題が書かれていないのでそれについても教えていただきたいと思いました。

34 ページの中で 1 番事業費の大きい、宇治十帖スタンプラリー開催費ですが、事業費が大きいにも関わらず、評価・課題で触れられていないので明記してほしいと思いました。

34、36 ページの文化、アート関連では是非取り組んでいただきたい視点があったのでお話ししたいです。現在、文化芸術やアートというと、経済的、時間的にゆとりのある一部の方々が、熱心に取り組まれている一方で、子供たちが若い世代は文化芸術に対して機会格差、経験格差がますます広がっているという深刻な状況です。私自身、日々の暮らしや仕事の中で活躍されているカルチャーデザイナー、それから民間の事業家の方々から、この格差に対する危機感を伺っております。単に一部の人の技術アップや享受するだけではなく、若者や子供たちの体験格差、機会格差を減らす制度や、文化芸術の裾野を拡大するという視点をぜひ運営部門の課題や今後の方向性を文書の中に明確に入れていただきたいと思いました。交付金という貴重な財源を使っているからこそ、事業費の大きいものをしっかり取り上げてほしいですし、現場の実態に即した課題を、下の評価課題のほうにしっかり記載していただくことで、今後の宇治市の施策がより実りあるものになると考えて、発言いたしました。よろしくお願いします。

(事務局)

33 ページの「子育て、子育てにやさしい京都創生プロジェクト事業」につきまして、「こども未来キャンパス事業費」と、「公園でつなぐ子育てにやさしいまち創出事業費」がそれぞれ二つ続いているのですが、資料の修正をさせていただきます。まず、「こども未来キャンパス事業費」ですが、事業費が 1947 と記載している事業は、「空き家活用促進まちづくり支援事業費」となります。

「公園でつなぐ子育てにやさしいまち創出事業費」につきまして、事業費 6957 と記載している事業は、「地域のつながり促進事業」となります。申し訳ございません。

なお、評価・課題につきましては、主な事業が多岐にわたるため、全ての事業について記載できておりませんが、今後はもう少し具体的な数値を盛り込んで記載をさせていただこうと考えております。

(事務局)

修正箇所につきましては、正しい資料を後日メールないし文書で送付させていただきますので、そちらでご確認をお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

事業の並びですが、恐らく国に報告している順かと思います。どのような記載が見やすいかは持ち帰って検討いたします。

交付金の内訳、事業費が要らないのではないかというご意見ですが、まちひとしごと創生総合戦略は、国の地方創生交付金を受ける一つの要件にもなっております。その中でどういう事業に活用していくかを記載するよう、国からも指摘がありますので、今後も内訳を残しながら記載する形になるかと思います。

34 ページの文化芸術ですが、様々な取組がありまして、団体への補助金や、我々が実施している事業もありますが、中程にあります、高校生の文化芸術祭典の事業費などは、先ほどおっしゃっていただいたように、若者が発表する機会、報告を行う機会を実施しております。

やはり定量的に記載するというのは大変重要だと思っておりますので、各部局と調整しながら、報告をできればと考えておりますので御理解いただければと思います。

(委員)

地域のコミュニティをつくる、まちづくりをする上でどれだけの人が関わっているかは、予算をかけたからいいわけではないし、予算をかけずにたくさん人と関われることもあると思うので、31 ページ以降に関係人口的な部分が表れたらいいなと思います。

(事務局)

委員から関係人口のお話がありまして、今、宇治市としても地域活動を大切に、自分事として考えていただくのは大事な一つの視点かと思っております。

事業の中には、補助金事業や、補助金を交付するからこそ自主的な取組を支援していきたいという事業を並べておりまして、そこに多くの方々が参加いただいていると認識しております。今回資料の中で関係人口の人数を把握しておりませんので、関係人口の視点というのはここに記載していませんが、委員の御意見も含めまして、関係人口の視点を工夫していきたいと思います。

(委員)

先ほどから皆さん申し上げているように、事業評価報告書はすごく完成された冊子だと思います。3 ページにあります世代別社会動態で、以前からずっと同じような形になっていると思います。18 歳から 23 歳が減少、24 歳から 29 歳、子育て世代と児童世代が増えているということですが、18 歳から 29 歳、働く年齢だと思うので、働き口の創設が大事かと思います。

東京の友人が宇治に来たときに、18 時ぐらいに JR の宇治駅の周辺が非常に寂しくて、「こんなに寂しいまちだったの」と言われてショックを受けましたが、41 ページにも製造業の情報を発信すると記載がありますが、商業はどうなのかと思ひまして、その辺りを教えていただきたいと思います。

(事務局)

人口動態世代別の社会動態ですが、やはり以前から 18 歳から 29 歳の転出が多いということで、進学就職がありますので、今すぐ解消は難しいかと思いますが、就職については、今安田地区に企業立地の取組も進めておりますので、働く場を宇治市が、誘致していくことで、宇治市に住んでいただいて、そこから働きに行く方が少しでも増えていけばいいと考えております。

商業的な指標については細かい資料は持ち合わせておりません。観光客については令和 7 年度過去最高ということで、上昇傾向ではないかと考えております。

(委員)

観光業のお店は、宇治橋商店街を見ると増えていると思いますが、やはり抹茶関係への偏り、お菓子が多いかと思います。それ以外の商業施設など充実できないかなと思います。

(委員)

私も人口の社会動態についてお伺いしたいと思います。御説明ありましたとおり、子育て環境の整備の中で、もう少し細かく見たときに、京都市との間で、社会動態がどうなのかということと、宇治市は山城地域と比べて社会動態がどうなのかということが分かれば、これからの対策としても、京都市方面を意識するのか、南を意識するかどうか、南部から都市に近い宇治市に集まってきているのか、その辺りを知りたいのが一点です。

もう一つは今も話題になりましたが、年度ごとというところで、18 歳から 29 歳、進学就職等で転出超過と記載していただいています。進学就職がメインの理由ということであれば、18 歳から 23 歳が大きく落ち込むと分かりやすいですが、現実には 24 歳から 29 歳のほうが若干多い。このあたりはもう少し細かく分析できたらご説明いただきたいです。

(事務局)

3 ページ下段に令和 7 年度の社会動態を記載しておりますが、こちらの分析はまだ進んでおりません。今委員がおっしゃった社会動態のマイナスはどこに行く、プラスはどこから来ているのか、いわゆる人流データが揃っておりませんので、引き続きデータ収集をしまして、分析していく中で、24 歳から 29 歳の年齢がここまで大きく減っているのか、経済効果につきましても分析し、我々として対策を練る一つのファクターとして考えてまいります。

(委員)

二点ございまして、一点は私が関わる観光、7 ページですが、評価と課題の箇所が、数値結果のことを記載されているところが多く、目標達成も大切だと思いますが、達成しなくても取り組まれたこともあると思いますし、逆に達成しても課題があったり、その辺り、実際に取り組まれたこと、それから成果を出されたことと、表現を変えていただくのもひとつかなと思いました。

二点目が、18 歳から 29 歳の方が転出超過ということでしたが、市民の愛着度の数字を見ると、すごく低い印象に思いました。おそらく、この世代の愛着度も低いのではないかと思います。これから分析されるというご説明でしたが、本当にインパクトが強く残る数字ですので、それに対してこ

ういう施策をしますというのがないと、数字だけが衝撃的な結果になってしまうのかなというところが気になりました。

(事務局)

観光施策につきまして評価課題が数値によるものが多いということですが、昨年度、観光振興計画を策定すると共に、観光動向調査を実施しておりまして、調査結果の数値が出ておりますので、今年度の評価課題に数値に関する記載が多くなっております。観光振興課でも各種事業を実施しておりますので、具体的な施策等をもう少し盛り込んで来年度以降に見ていただけたらと考えております。

18 ページの市民の愛着度ですが令和 7 年度 63.7%となっております。年代別に見ると 50 代以上の愛着度が高い結果となっており、若年層がやはり愛着度が低い状況です。宇治市の取組や施策等が伝わっていないのではないかと推測されますので、情報発信等の PR も含めて各種取組を推進してまいりたいと考えております。

(委員)

24 歳から 29 歳の人口が減っており、そして 50 歳以上の方の愛着度が高いという部分がすごく共感できることがあります。若い時は海外を見てみたい、東京や大きい都市を見てみたいわけで、出ていくことが多々あると思います。人生経験をした後、40 代、50 代になって宇治の戻ってこられた際に良い街だなという場合もあるので、私も 20 代後半で外をぜひ見てみようと思います。外を見てもらって、いいところいっぱい学んで来てもらい、それを 30 代 40 代 50 代でまた宇治に戻ってくるのがいいかなと思います。友人の 1 人にイギリスで 10 年以上、アートの仕事をして技術を磨いている方がいます。その後東京に戻り、大学の先生をされているのですが、ある時宇治に来て、宇治って素敵だなと思ったらしく、この方は 40 代後半で、宇治と東京の 2 拠点生活を始めるということで、宇治に土地を持ちたいから相談に乗って欲しいと言われたことがあります。若い時には分からないかった魅力が 40 代、50 代で分かることがありますので、20 代後半の人口が少ないことを、マイナス面ばかり捉えるのはどうかと感じました。

(事務局)

20 歳から 29 歳までの方が転出される状況ですが、年を経ってから戻ってきていただけるよう、引き続き人口増加に向けて取り組んで参りたいと考えております。

(委員)

私は 4 月からこちらに赴任しまして、私は南部以外に、滋賀の中部北部、それから京都の丹後や中間部、北部ばかり赴任してきましたが、南部は初めてすごく新鮮に感じております。私が関わってきた場所の中では、宇治はすごく知名度がありますし、お茶とか平等院とか、最近では小倉駅のニンテンドーミュージアムなど、観光資源が豊富で恵まれている印象が強いです。先日も京都新聞の山城版で、宇治の観光客が史上最高を記録したという記事を掲載しましたが、またその中で課題として、中宇治地区と小倉に二極化する中で、この辺をどうやってつなげてい

いくかっていうことが挙げられていましたが、そういう意味では観光動向調査、7 ページの交通状況や標識等の観光案内に対する満足度が低いところが気になりまして、宇治市が昔からの観光地だったのになぜかなということと、目標に至らなかった要因が何だったのかを分析されているかをお聞かせいただきたいと思います。

(事務局)

観光動向調査につきまして観光客の宇治市満足度についてですが、そちらの項目が 11 項目ございまして、宇治茶、寺院・神社、自然や風景、宇治の街並み等様々ございますが、調査状況につきましては、前回調査がコロナ禍で観光入込客数も落ち込んでいたこともあり、満足度にはそちらの状況が影響していると考えております。

観光施設のおもてなしにつきましても減少傾向にあります、中宇治地域、宇治橋商店街が大変混雑しておりますので、この状況が満足度に影響しているのではないかと推測をしております。

(委員)

出生数ですが、おそらく出生率という言い方をすれば、宇治市は京都府の平均を下回っていると思います。私も調べたら、特に乙訓エリア、福知山、舞鶴など、数値が京都府の中でも高いということで、その辺の背景は何かあるのか、周辺の出生率が高い地域はどうされているのか、検証していただいているのかお聞かせいただきたいと思います。

(事務局)

合計特殊出生率かと思いますが、国勢調査の速報とあわせまして調査は令和 7 年の合計特殊出生率が 1.03 という報道もございます。

ただ全国の合計特殊出生率は毎年出されますが、市町村単位では公表が少ないという課題があります。いわゆるベイズ推定値を用いるように言われております。このベイズ推定値は何かといいますと、5 年ぐらいのトータルで出生率を出していくものでして、平成 30 年度から令和 4 年までの 5 年間、宇治市は 1.35 という出生率です。今の段階ではまだ出ない状況ですが、この 1.35 は、実は京都府の平均よりも高いのではないかと考えております。ただあくまでも推定値ですので、正しい状況を表しているのかはいろんな議論があるかと考えております。

そういった状況の中で他の市町村の出生率等の分析にはお時間をいただく必要がありますが、生まれてくる子供たちは、にぎやかな社会を形成していく上では欠かせないと考えておりますので、平均を下回ってしまっている出生状況や合計特殊出生率など、そういう資料を踏まえまして、検証してまいります。

(委員)

何人かの委員さんからも御質問あったと思いますが、5 ページの KPI 達成状況で、前回の結果は全く覚えてないですが、3 の「住み続けたいふるさと宇治の創生」、そして 5 の「未来を拓く都市基盤整備」という分野は、今の段階では、目標達成率 0%という非常に見栄えが悪いという御質問等がありましたが、例えば令和 7 年から 11 年の 5 年間で進めていかれるわけですが、今年度

や8年度や9年度で、達成できるような予定などは分かるでしょうか。

(事務局)

7年度、8年度、9年度、10年度、ここまでは確定に至っていないくて、11年度に全部が100になるのが正しいKPIの達成状況かと考えております。多くの方が努力をして取り組んでいるにもかかわらず、何もしてないような伝わり方をするのは本意ではないと考えております。我々としては1日も早く達成したいという思いを持っております。こういった達成状況になるかは我々つかんでおりませんが、いろんな方々がそれぞれ御尽力賜っておりますところを踏まえまして表現は十分注意しながら検討してまいります。

(委員)

多岐にわたる事業をやっていると思いますので、シビアに数字を出しておられるのかも分かりませんが、やっておられる事業を反映した表現にしていけたらありがたいです。

(委員)

先ほどから24歳から29歳が減っている話がありまして、一応私が28歳ということで1サンプルとしてどういう気持ちなのかシェアさせていただきたいと思います。

確かに私の友人は都市部に出ている状況です。なぜ私はここにいるかということ宇治が好きだからです。家を出る機会があり、そして海外に行ったりして改めて宇治の魅力を知りました。

山本委員がおっしゃったような、まず文化的なところ、元々宇治はそこが強いですし、河村委員おっしゃっていたように歴史・文化等、宇治にはかなり魅力がある。文化というところの閾値を上げることによって、20代若者も、プライドを持っている感じがします。シビックプライド、市民のプライドがあり、「若くても宇治のような大人なところに住んでいる」みたいなブランド的なところもありそうだなと思った時に、文化の分野に投資をすることによって、年齢を重ねた方が住みやすいのもそうですし、若い方も特徴を享受するといえますか、ブランドに惹かれることもあるのではないかと思います。

(委員長)

当事者からのご意見を参考にさせていただければと思います。一通り御意見はお伺いしたのですが、他に何かございますか。

皆さまからいろんな御指摘や御質問いただきまして、御質問に対してはお答えいただいたわけですが御提案も一部入っていたかと思います。

5ページの表ですが、何回か話題に上りましたが、今回5年間のうちの初年度なので、そもそも目標が達成されていること自体が不思議なぐらいなので、目標達成できてないのが、たくさん並んでいても全然不思議ではないですが、ただこういう表はひとり歩きしてしまいますので、その辺りをどう表現するかは気をつけたほうがいいかと思います。というのは、最近AIがどんどん出てきており、達成状況を調べたときにAIはここだけを見るんです。全部の説明を見ないで、変な回答をすることがあります。最近そういうことが多いので、いろいろ確認して

たら、資料中ではいろんな注釈も含めて記載があるのに、表にあった数字だけを出してきてそれをコメントするので、元資料を見てみたら全然違うじゃないかということが分かってくるんです。間違った数字とか解釈がどんどん広がる恐れがあるので、表記の仕方、何か工夫があったほうがいいのかと思います。

そもそもこの評価報告書は、事業報告書自体が、国が要求している地方創生絡みの前提があります。宇治市独自のもの、もっと充実したものを作ったほうがいいということもありますが、そうすればするほど国の求めているものと違うものになってしましまして、これらが交付金の交付業務にあたらないと言われてしまうと困るので、どうしてもこのようなものになってしまう部分もあると思います。

事業評価報告書になっていますが、そもそも日本で事業評価というのは評価ではなく、事業レビュー、測定です。それが日本では評価というふうに言っているだけで、世界には通用しない概念ですけども、国の指示ですから、やらざるを得ないので、事業レビューをし、それを事業評価報告書としてまとめるというのが国の要求です。

やむを得ないかなと思いますが、一応評価課題という欄があって、担当課を中心とした市としての見解というのが述べられているわけですので、その部分の書き方、内容というのがまさに、実際に事業をやっている者がこの事業に対してどういう思いを持って、何を実現しようとしているのかということは、表す意思が重要な部分だと思いますので、ここの書き方だけではできるだけ維持し、独自の努力が見えるように、時間が許す範囲でまた検討していただければというふうに思います。

あともう一つ御指摘ありましたが、この全体の流れをずっと見ていって、最後 33 ページ以降は、宇治市独自というよりは広域的な取組とか、連携してやっている事業、京都府との関係というようなものになって、性格の違うものが後ろにくっついているのかなと思います。

そういう関係で、宇治市独自のいろんな取組のところに比べますと、31 ページ以降、内容や説明が随分素っ気ないなというご指摘の通りだと思います。

どこまで充実させるかというのは考え方次第です。取りあえず、実績としての公表が必要なのはもう言うまでもないですが、ここもやはり先ほど御意見あったように評価や課題のところ、宇治市独自のものではなくても宇治市はやっているわけですので、もう少し、今後どうすべきなのかということを、この評価・課題の部分をもう少し充実させていただくと良い気がします。

31 ページ以降、タイトルが国の地方創生関係交付金を活用した事業ということで、ここから別のものだというのは構成上分かりますが、これがその前の事業とどう違うのかっていう、読んだ人には分からないですね。だから、こういう事業ですよというのを説明したほうがいいのかなと思います。交付金のところ、性格が違うというわけじゃないですけど枠組みが違うものですよっていうことが分かったほうがいいのかという気はいたしました。

委員の皆さまの御指摘を聞くと、なるほどそうだなと思うことが多々ありまして、最後に私なりの感想を少し述べさせていただきましたが、皆さまの御関心のある部分についてもっとここを詳しくとか、関連するものはどうなのかといういろいろ御質問されたいことがあるかと思いますが、今回、まちひとしごと創生総合戦略の中に挙げました事業や、あるいは目標値についても、評価報告書としてはこういう枠組みのもので御了解いただくということでよろしいでしょうか。

基本的にはこの案をベースに、本日出ました御意見などを参考に一部修正や加筆などをしていただければと思います。どうもありがとうございました。

《事務局より事務連絡》

4. 閉会